

文化

沈黙に向き合う

沖縄戦聞き取り47年

石原 昌家

(80)

1999年8月11日、琉球新報、沖縄タイムズ両紙は沖縄県平和祈念資料館の展示内容が極秘に変更されようとしていることを暴露した。以後、両新聞社は住民視点による沖縄戦の真実を記録し、報道してきた視座に立つて、連日連夜、取材に全力をあげてきた。

その報道に対する一般県民の声はこうである。「よくぞスクープしてくれた。ずり出した。もちろん、拍手喝采。朝・夕刊の大見義・主張は、大いに違つて

「国策」への配慮、色濃く

刊(1)



4月初旬には変更指示

資料館問題で県 ちくはく ちくはく ちくはく

この声は監修委員会を含む当時の県民の気持ちを代弁する内容といえよう。市民の言う、引きずり出した稲嶺県政の平和観は、県議会と与野党議員の追及によって明らかに、新聞はそれを大々的に報じてい

「国策」への配慮、色濃く」などの見出しで、県平和祈念資料館の展示変更問題について報じた。1999年10月3日付の琉球新報夕刊(1)

国策批判抑え、展示変更

歴史認識、根底から覆す

平和祈念資料館問題(13)

いい。しかし、事実は事実である。数少なくなりつつあるとはいえず、生き証人がいるではないか。報道関係者に望む。納得のいく結果がでるまで追及の手を緩めな

県議会の文教厚生委員会と同時並行で新県平和祈念資料館のガマの展示を検討する監修委員会も7日、県庁内で開かれた。監修委員

新報」99年10月8日朝刊)と、会長代理、部会長の発言を紹介している。1970年から聞き取りを重ねてきた私としては、沖縄戦体験を語る場合、常に生存者の思いを代弁している

するなど、国の政策に沿った展示内容に変えることを何度も求めている。複数の関係者によると、三月の説

「沖縄戦への道」の展示では、文部省検定教科書を基準とした展示内容にすることや、沖縄が日本の一

る。さらに現資料館の最後に「いかなる人でも戦争を肯定美化する」とはできないはず」と記された「むすびのことば」についても、新たなものに差し替えることを提案している

あらかに記した記事を大々的に報じた。

10月7日付の琉球新報朝

相次ぐ削除

県庁激震

が県政と監修委員会では歴史認識が異なる」と発言したとされる報道に星氏は「歴史認識が違えば、県政が変わるたびに展示内容も変わるのか」、宮城氏は「三

刊1面トップ記事の見出しでは、昭和天皇は「米國が沖縄その他の琉球諸島の軍事占領を続けるよう希望している」という「天皇メッセージ」も削除(3月24日付の本連載第79回)したことを報じた。

「また、子ども・プロセス展示では「日本の中の人種差別」の項目でアイヌ民族、被差別部落、在日外国人、沖縄基地問題を紹介する予定だったが、すべてを削除するよう指示してい

「知事/県三役の関与認め」の見出し記事に続いて、「県庁激震/新事実の発覚に衝撃」という見出しで展示全体で国策批判を抑え、政府に遠慮する形で展示するよう変更を迫っている

(次回は21日掲載)